

令和7年度 前期 ビジネス・キャリア検定試験

ロジスティクス分野

3級 ロジスティクス管理

試験問題

(11 ページ)

1. 試験時間 110 分

2. 注意事項

- (1) 試験問題は、係員の指示があるまで開かないでください。
- (2) 表紙に記載されている試験区分名が、申請している試験区分名と同じか確認してください。申請している試験区分と異なる試験区分を受験した場合は採点できず、不合格となりますので、ご注意ください。なお、試験開始後に申し出られても、試験時間の延長はできません。
- (3) 試験問題は、40題あります。
- (4) 試験問題の配点及び合格基準は、次のとおりです。
(配 点) 問題1～問題40 各2.5点 合計100点
(合格基準) 試験全体として概ね60%以上の正答。
- (5) 関係法令、会計基準、J I S等の各種規格等に基づく出題については、問題文中に断りがある場合を除き、令和7年5月1日時点で施行されている内容に基づくものとします。
- (6) マークシートにマークする際には、HB又はBの黒鉛筆で、はっきりとマークしてください。それ以外は使用しないでください。なお、訂正する場合は、採点の際にマークシートの誤読の原因となることがありますので、きれいに消してください。
- (7) 計算等が必要な場合は、問題用紙の余白を使用してください。
- (8) 問題番号及び問題文に従って正解と思われるものを1つだけ選んで間違えないようにマークしてください。
- (9) 試験問題の内容に関する質問には、一切お答えできません。
- (10) 試験中にトイレへ行きたくなった場合は、黙って手を挙げて係員の指示に従ってください。
- (11) 試験終了時刻前に解答が済み、退出する場合は、黙って手を挙げて係員の指示に従ってください。ただし、試験開始後30分間及び終了前10分間は、退出できません。なお、退出する場合は、周りの受験者に配慮して、静かに退出してください。
- (12) 試験終了の合図があったら速やかに筆記用具を置き、係員の指示に従ってください。
- (13) 試験終了後、マークシートを必ず提出してください。ただし、試験問題は、持ち帰ることができます。なお、マークシートが提出されていない場合は、失格となります。
- (14) カンニング行為（他の受験者の答案等を見ること・他の受験者に答えを教えること・他者から答えを教えること・指定されたもの以外のものを机の上に置くこと等）、替え玉受験、不正行為と疑われるような紛らわしい態度をとる行為、他の受験者の迷惑となる行為、係員の指示に従わない場合などは、不正行為とみなされます。不正行為とみなされた場合は、直ちに退場となり、当該期に受験する試験区分のすべてが失格となります。
- (15) 試験問題の転載、複製などを固く禁じます。

問題 1 物流の分類に関する記述として最も適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 社内物流とは、企業の工場内での運搬や仕掛品の一時保管等の物流を指し、自社工場から自社拠点までの物流は、社内物流ではない。
- イ. 調達物流とは、メーカーが原材料や部品を調達する際に発生する物流などを指し、消費者が通信販売で商品を取り寄せることは、調達物流ではない。
- ウ. 動脈物流とは、メーカーから消費者に届くまでの一連の物流を指し、メーカーが原材料や部品を調達する際の物流は、動脈物流ではない。
- エ. 静脈物流とは、商品が消費者まで届けられた後の、回収・返品や廃棄に伴い発生する物流を指し、流通段階の途中で発生する破損などの返品は、静脈物流ではない。

問題 2 ロジスティクスに関連する用語の定義に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 物流とは、モノ（商品や物資）の輸送（空間的移動）や保管（時間的移動）などを統合した概念である。
- イ. ロジスティクスとは、商品や物資を顧客の要求に合わせて届けるとき、物流を中心に、ときには受発注を含めて、効率的かつ効果的に、計画、実施、管理することである。
- ウ. サプライチェーンとは、一企業内で行われる調達から販売までのロジスティクスのサイクルを複数の鎖（チェーン）に見立てたものである。
- エ. サプライチェーン・マネジメントとは、商品や物資の最適な供給を実現できるように、サプライチェーン全体を管理することである。

問題 3 ロジスティクスの管理対象に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. モノ（商品や物資）の在庫状況を管理することを、需給管理という。
- イ. 輸送、保管、荷役等に関するシステムを構築し、適正に運用することを、物流システム管理という。
- ウ. 物流活動を行うときに、正確なコスト把握と最適化を目指すことを、物流コスト管理という。
- エ. 貨物車やドライバーの手配、運行経路と運行スケジュールの設定、輸送中の貨物の品質などを管理することを、輸配送管理という。

問題4 物流管理を、対象期間別に、中長期管理、年次・四半期管理、日常（月・週・日次）管理に分けた場合、管理業務の内容と対象期間に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 物流拠点の移設や統廃合は、中長期管理の観点で検討される。
- イ. CO₂削減の進捗チェックと、同チェックにより問題が見つかった場合の対策は、年次・四半期管理として実施される。
- ウ. 出荷波動に基づく作業者の配置調整は、中長期管理として実施される。
- エ. 作業生産性や品質改善のための作業方法変更は、日常管理として実施される。

問題5 物流情報システムの開発と運用における物流部門と情報システム部門との関わりに関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 物流部門から物流情報システム開発プロジェクトに参画させるメンバーは、業務知識よりも情報システムについての知識が豊富な人を優先して参画させる。
- イ. 開発プロジェクトにおいて、物流部門は、予め物流情報システムに関する要求事項をまとめておく必要がある。
- ウ. 開発プロジェクトにおいて、物流部門は、情報システム部門の作成した成果物を、業務的観点及び投資効果の観点からレビューする。
- エ. システム稼働後のメンテナンスは、物流部門と情報システム部門が共同して行う。

問題6 ロジスティクスに関連する物流部門と関連部門・社内外の組織との関わりに関する記述として最も適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 物流部門は、購買、製造、マーケティング・営業の各部門の方針に常に従う必要がある。
- イ. 製造業は、製品の販売先に対して、自社の調達計画を説明する必要がある。
- ウ. 企業は、モノ（商品や物資）の供給において、最終的な顧客である消費者の行動や思考の変化よりもクレームを最重視する必要がある。
- エ. ロジスティクスに関する各部門は、インフラ関連の施設整備や各種の法規制など、行政や公共部門の動向に注意する必要がある。

問題7 トラック運送に関わる労働力の現状に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. トラック運送に従事する労働者の年齢構成は、全産業の平均年齢と比較して高齢化が進んでいる。
- イ. トラック運送に従事する労働者の女性比率は、託児所・保育所の設置や女性の運転に適したトラックの開発などもあって、全産業と比較して同程度の比率になった。
- ウ. 道路貨物運送業の労働時間は、製造業と比較して一般的に長い。
- エ. 事業用トラックの運転者の給与水準は、他産業と比較して低い傾向にある。

問題8 我が国の近年の物流政策の動向に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 書面（FAXを含む）や電話等で行われている民間事業者間の貿易・輸出入手続について、電子化を図っている。
- イ. 総合物流施策大綱（2021年度～2025年度）のKPIである宅配便の再配達率の目標値は、既に達成されている。
- ウ. 倉庫や配送センターなど物流施設において、ピッキングやパレタイズを自動で行うロボットや無人フォークリフト、無人搬送車（AGV）の活用を促進するため、国が導入支援を図っている。
- エ. 荷主に対して交渉力の弱いトラック事業者が、必要なコストに見合った対価を収受できない状況を改善するため、政府は標準的な運賃の浸透を図っている。

問題9 コンプライアンスに関する記述として最も適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 各事業者は、財務報告の信頼性確保、社内ルールの整備と徹底、各法令などのコンプライアンスの手段として、内部統制に取り組むことが重要である。
- イ. コンプライアンスの遵守のためには、全従業員に対してはその重要性を意識するように求めるが、委託事業者は対象外である。
- ウ. 法令に違反すると、会社は罰せられるが、個人は罰せられないのが通例である。
- エ. コンプライアンス教育に当たっては、各関係法令、企業指針、社内規程類を網羅した詳細なガイドブックを全従業員に持たせることが重要である。

問題10 下請取引を行う際において親事業者に課される4つの義務に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 遅延利息の支払義務
- イ. 支払期日を定める義務
- ウ. 注文書面の提示義務
- エ. 書類の作成・保存義務

問題11 物流サービスに関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 輸送・保管等につわる条件としてのサービスである。
- イ. 物流サービスは、顧客サービスの一部である。
- ウ. 人や物が介在されることから、有形財のサービスである。
- エ. サービスレベルが高くなると、物流コストが増大する傾向にある。

問題12 物流会社の物流サービスレベルの設定として最も不適切なものは、次のうちどれか。

- ア．新規受託をするため、流通加工は無償提供とした。
- イ．納品先別の物流サービス実態を調査した上で、新しくサービスレベルを設定することによって、運用トラブルを防止する。
- ウ．輸配送サービスの一つである時間指定は、コストアップになるために有償のサービスとした。
- エ．物流サービスは、サービスレベルを可視化することが必要である。

問題13 物流品質に関する改善手法の記述として最も不適切なものは、次のうちどれか。

- ア．納期に遅れが生じてきたことから、納期遵守率等の実態を確認し、原因分析を行った。
- イ．商品の段ボール箱に破損、汚損が多数見られるとのクレームが上がってきたため、物流センター及びトラックの荷室内にカメラを設置して記録を取り原因を突き止めた。
- ウ．配達員の態度が悪いとのクレームが増えてきたため、朝礼等であいさつの仕方、納品時の手順の指導等を行った。
- エ．貨物トラックのオイル漏れにより、納品先近辺に環境汚染を起こしてしまったので、当該オイル漏れがあった対象車両のみ整備点検を行った。

問題14 保管レイアウト設計の基本的な考え方に関する記述として最も不適切なものは、次のうちどれか。

- ア．保管レイアウトを決める際は、商品の大きさ、重さ、形など物理的形狀も考慮する必要がある。
- イ．保管効率を高めるためには、できるだけフリーロケーション方式より固定ロケーション方式を採用する。
- ウ．重量物は、できるだけ倉庫内の1階か低層階に保管する。
- エ．商品毎に入出庫の頻度を分析し、必要な都度レイアウト変更を行う必要がある。

問題15 物流システムの構築の考え方に関する記述として最も不適切なものは、次のうちどれか。

- ア．顧客ニーズを満たす物流サービスを提供する。
- イ．経営資源を合理的にコントロールする。
- ウ．外部不経済の発生を抑える。
- エ．自社とは違う業界で評価の高い物流システムを採用する。

問題16 卸売業の物流システムに関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア．物流は、卸売業の重要な機能であるため、卸売企業が連携した共同配送は行われていない。
- イ．加工食品や日用雑貨など最寄り品の卸売業は、販売に地域性があることもあり、営業所ごとに取扱品目を定めるのが一般的である。
- ウ．業務用などの専門品の卸売業で品目数が多い場合、在庫拠点を集約する例が見られる。
- エ．量販店の一括物流センターでは、卸売業が運営を受託している事例が見られる。

問題17 出荷頻度分析に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア．出荷頻度分析における「出荷頻度」とは、品目ごとのピッキング回数を意味する。
- イ．出荷頻度が高い品目ほど出荷口の近くに置くことで、在庫が削減されやすくなる。
- ウ．出荷量の多いものほど出荷頻度が高いとは限らない。
- エ．出荷頻度分析を行うことで、効率的なセンター内ロケーションを設定しやすくなる。

問題18 物流拠点設定に関する考え方として最も不適切なものは、次のうちどれか。

- ア．汎用品中心から注文生産品中心に販売体制をシフトしたメーカーが、物流拠点の規模を縮小することとした。
- イ．ある県でその全域における当日配送を開始した通販事業者が、その県内を同一面積の配送エリアに区切り、各配送エリア内に偏りなく物流拠点を設置することとした。
- ウ．海外生産比率を大きく拡大し、生産した商品を海上輸送で輸入することとしたメーカーが、港湾近隣に新たに物流拠点を設置した。
- エ．海外顧客への納入リードタイムが短く高額な商品を輸出しているメーカーが、空港近隣に新たに物流拠点を設置することとした。

問題19 物流子会社に関する記述として適切なものは、次のうちどれか。

- ア．一般に、物流子会社は、積極的に3PLビジネスに進出して、株式上場を目指すことが求められている。
- イ．親会社の物流管理を行う会社が物流子会社と定義されるため、物流の現業のみを行う会社は、物流子会社と呼ばない。
- ウ．物流子会社を設立するメリットの一つに、物流関係費用や管理責任の明確化が挙げられる。
- エ．赤字部門の外出しのために設立された子会社を保有している場合、投資家からは、有価証券報告書の親会社の個別決算で利益を確保できているかが重要視される。

問題20 製造業が配送拠点を集約した場合の効果に関する記述として最も不適切なものは、次のうちどれか。

- ア．配送リードタイムを短縮できる。
- イ．工場－配送拠点間の輸送コストが削減できる。
- ウ．拠点の総面積が削減できる。
- エ．配送拠点間の横持ち輸送が削減できる。

問題21 送金決済等、貿易取引に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア．送金決済には、前払い送金と後払い送金がある。
- イ．航空輸送では、輸送時間が短いため送金決済が主流となっている。
- ウ．送金決済を利用した場合でも、貨物の引取りには船荷証券（B/L）が必要である。
- エ．輸出者から輸入者へ送付する運送状は、原本である必要はない。

問題22 在庫管理の目的に基づく対応に関する記述として最も不適切なものは、次のうちどれか。

- ア．組立加工メーカーA社では、製造原価を低減するために、原材料の価格が安い時期にできるだけ大きなロットで購買を行うよう計画を組んでいる。
- イ．日用雑貨卸B社では、過去の出荷データを基に商品アイテム毎の上限在庫日数を設定し、仕入れを行っている。
- ウ．コンビニエンスストアC社の店舗では、POSから得られるデータと近隣のイベント、天候、気温などを考慮して、店頭の商品を補充発注している。
- エ．インターネット通信販売D社では、欠品の防止と過剰在庫の回避を目的として、商品の売行き情報と在庫情報をリアルタイムで納入業者へ提供している。

問題23 在庫管理の手法に関する記述として最も適切なものは、次のうちどれか。

- ア．倉庫においては、ジャスト・イン・タイムにより適正な出庫を行うことが重要であることから、入庫より出庫の作業管理が優先される。
- イ．棚卸作業においては、「当残＝前残＋出庫量－入庫量」で算出した在庫量と現品とを常に一致させるようにする。
- ウ．引当可能な実在庫の量が、事前に定めた許容範囲から外れた場合には、在庫管理部門は、関係部門に関連情報を発信し、正常に戻すアクションを促す。
- エ．入庫品の納期はバラつくのが通常であることから、数日間の幅を持たせてチェックすべきである。

問題24 安全在庫に関する記述として最も不適切なものは、次のうちどれか。

- ア．安全在庫は、出荷量の変動が大きいほど多く必要になる。
- イ．安全在庫は、在庫補充リードタイムには左右されない。
- ウ．安全係数が大きくなれば、品切れ率は小さくなる。
- エ．品切れ率を1%とすると、安全係数は2.3程度となる。

問題25 在庫の補充方式に関する記述として最も適切なものは、次のうちどれか。

- ア．スーパーマーケットA社は、特売用のトイレットペーパーを不定期定量方式で発注している。
- イ．コンビニエンスストアB社は、定番のチョコレートを定期定量方式で発注している。
- ウ．インターネット通信販売C社は、科学の学術書を不定期不定量方式で発注している。
- エ．飲料メーカーD社では、原材料の果実を定期不定量方式で発注している。

問題26 在庫分析の手法に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア．在庫が日々どのように変動しているかを明らかにするために、流動数曲線グラフを作成する。
- イ．適正在庫量を検討するために、在庫保有日数を算出する。
- ウ．倉庫内の商品を出荷頻度に応じたレイアウトに変更するために、品目別出荷回数のパレート（ABC）分析を行う。
- エ．商品が入庫してから出庫するまでの滞留時間を調べるために、流動数曲線による分析を行う。

問題27 棚卸に関する記述として最も適切なものは、次のうちどれか。

- ア．棚卸で確定した在庫金額は、貸借対照表上の固定資産に記載される。
- イ．循環棚卸とは、全ての保管区画を毎日一巡して棚卸を行うことである。
- ウ．棚卸資産の帳簿上の数値と実棚の数値が異なっている状態を放置したまま業績報告すると、虚偽記載として法令違反になる場合がある。
- エ．破損や盗難などにより現品が帳簿在庫より少ない場合は、最初に原因を究明してから帳簿を訂正する。

問題28 物流コストに関する記述として最も適切なものは、次のうちどれか。

- ア．物流コストは、財務会計から、物流に関する費目を抽出して算出する。
- イ．物流コストの把握が難しいのは、物流業務が他の業務とリソースを共有している場合があるためである。
- ウ．物流コストを変動費と固定費とに分けた場合、変動費の割合が高いことは、一般に企業経営上望ましくないといえる。
- エ．卸売業では、対売上高物流コスト比率が近年大きく低下してきている。

問題29 物流コストの管理に関する記述として最も不適切なものは、次のうちどれか。

- ア．E C Rとは、年度当初に物流コスト削減の計画を立て、実行後に結果を評価し、次年度計画の見直しを行うことである。
- イ．ベンチマークとは、自社のサービスなどを、競合他社や業界のリーダーと比較し、改善点や優れている点を分析することである。
- ウ．予実管理とは、予め策定していた予算と実績を比較し、差異の分析等を行うことである。
- エ．K P Iとは、物流コストを左右する重要な要因を指標として設定するものである。

問題30 トラック輸送の運賃・料金に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア．トラック運賃のうち貸切運賃は、主に時間制と距離制に分かれる。
- イ．トラック運賃のうち積合せ運賃は、主に距離・質量に基づいて計算される運賃であり、特別積合せ貨物運送事業者のみに適用される。
- ウ．トラック運送事業者が積合せ運賃を改定・届出しても、自動的に荷主との契約運賃が改定されるわけではない。
- エ．トラック運送業の業界団体は、荷主に対して「標準的な運賃」の普及活動を行っている。

問題31 物流コストの計算方法に関する記述として適切なものは、次のうちどれか。

なお、物流コストの計算方法は、旧通商産業省「物流コスト算定活用マニュアル」によるものとする。

- ア．パレットの購入・補充費用は、輸送費に分類するのが適当である。
- イ．自社の倉庫から自社の営業所までの輸送に関わる運賃は、販売物流費に分類するのが適当である。
- ウ．自社の物流拠点で従事する派遣社員の費用を派遣会社に支払う際は、支払物流費に分類するのが適当である。
- エ．自家物流費を固定費と変動費に区分する場合、MH機器の減価償却費は固定費に区分するのが適当である。

問題32 トラック運送業者の貸切輸送によって自社センターから店舗配送する小売業が、納品作業のコスト削減のために、台車に折りたたみコンテナを積みつけて納品する「ドリー納品」を導入した際に生じたコストトレードオフに関して不適切な記述は、次のうちどれか。

- ア. 車両の積載効率が低下し、必要な台数や車種に影響したため、貸切運賃が増加した。
- イ. テールゲートリフターを装備した車両を調達する必要性が生じたため、貸切運賃が増加した。
- ウ. 納品先でのSCMラベルのスキャンが必要となったため、物流情報システム費が増加した。
- エ. 自社センターで出荷先別のドリーに折りたたみコンテナを積みつけるため、センター内の作業費等が増加した。

問題33 受注処理システムに関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 電話で受注したオーダーエントリーでは、画面、キーボード等からコンピュータに入力することにより処理する。
- イ. 欠品時の処置については、発注側と受注側との事前の取決めにより行われる場合がある。
- ウ. エントリーされたオーダーに対して、出荷に向けて情報処理を行うメリットとして、ピッキング作業が効率化されることが挙げられる。
- エ. オーダー管理システムとは、受注オーダーの状況を管理することにより、売掛金管理を効率化するものである。

問題34 発注処理システムに関する記述として適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 「発注側」が発注内容を決定する際、人が判断し、人手で入力となされる以外に、コンピュータによる自動発注（CAO）の方式もある。
- イ. 「受注側（仕入先・納入事業者）」が発注内容を決定するVMI（ベンダー在庫管理方式）は、受注側のデータで予測を行い、発注内容を決定するものである。
- ウ. コンピュータによる自動発注（CAO）を行う場合は、各商品の在庫数に一定の基準を設定する必要があるが、基準設定の基本は前回の発注量である。
- エ. EOS発注における携帯型の発注専用端末は、熟練度が増すと入力速度が上がるため、大量データの入力時にも効率よく対応ができる。

問題35 倉庫管理システム（WMS）の導入に関する記述として適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 倉庫作業の効率化と物流品質の向上が期待できる。
- イ. 倉庫作業の効率化は期待できるが、物流品質の向上は期待できない。
- ウ. 倉庫作業の効率化は期待できないが、物流品質の向上は期待できる。
- エ. 倉庫作業の効率化と物流品質の向上は期待できない。

問題36 輸配送管理システムに関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア．配送・配車計画システムには、届け先の数と車両台数を最小化する目的がある。
- イ．求貨求車システムでは、求貨側へは往復実車の実現による売上げ増が期待される。
- ウ．運行管理システムは、クラウドコンピューティングのSaaSにて提供されているものが使われることが多くなっている。
- エ．鉄道コンテナの管理システムに、RFIDが導入されている。

問題37 ロジスティクス情報システムに関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア．ロジスティクス情報システムにおけるEDIとは、物流事業者相互間のEDIのことである。
- イ．ICTの活用は、ロジスティクス情報システムを高度化させ、人手不足などの解決に貢献している。
- ウ．ネット通販におけるロジスティクス情報システムは、顧客の「時間短縮（注文したものがすぐ届く）ニーズ」の充足に活用されている。
- エ．ICTの発展により、ロジスティクス情報システムにおける企業間での大量の情報交換が可能となった。

問題38 基幹システムとロジスティクス情報システムとの関連に関する記述として最も適切なものは、次のうちどれか。

- ア．物流事業者の倉庫管理システムを荷主の基幹システムと接続する場合、情報漏洩^{えい}の防止のために、基幹システムから倉庫管理システムへの情報伝達を行わない。
- イ．基幹システムと連携したロジスティクス情報システムを使用することにより、ロジスティクス部門が需要予測から需給調整まで行える可能性がある。
- ウ．SCMの推進のために構築される企業間ネットワークシステムで共有されるデータは、主に経営管理で用いられる。
- エ．物流情報システムを販売情報システムと接続して使用する場合でも、会計システムと接続して使用することはない。

問題39 情報システムのテストに関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア．画面表示や印刷位置のずれがないことを確認するのは、単体テストである。
- イ．情報システムの各種テストに用いるのは、常に実際のデータとすることが望ましい。
- ウ．総合テストでは、他システムとの連携のチェックも行う。
- エ．運用テストでは、本番稼働時と同様の環境下での、他システムとの連携や処理時間などの確認を行う。

問題40 1次元シンボルに関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. J A Nコード（G T I N-13）は、集合包装に対し設定された商品識別コードとして使用されている。
- イ. 世界的に標準化され広く普及している1次元シンボルは、2次元シンボルと比較して情報化密度は低い。
- ウ. 1次元シンボルは、P O Sに使用する場合、業務に差し支えない程度に読み取り速度が速く、誤読率は極めて低い。
- エ. 1次元シンボルであるG S 1 -128は、企業間取引などの識別コードとして利用されている。